

## 第三十八回 顎関節と体全体との関係

頭蓋骨の左右の側頭骨（耳のあたりの骨）を家でたとえていうならば、家の外壁と床がくっついて床の真中で左右別々に前後逆方向に捻れ、左右が横へ同じ方向に傾き、床の真中で左右の境目で上下の段差のズレをおこします。

これを頭蓋骨でいいますと、左右の耳の下骨が下に向かって小指位の突起の骨（乳様突起）である側頭骨が左右が逆方向に上下・前後にズレをおこし、左右の側頭骨の間に巾1cm位の後頭骨が介しています。

その後頭骨もズレをおこし、後頭骨がズレをおこしますと小脳・筋肉協調運動の異常（例えば足踏みすると片側の手と足が共に前方へ、又は共に後方へ動かしていたりする）、後頭痛、言語障害、視覚障害をおこすものです。

そして側頭骨が左右に捻れるものですから耳の穴が小さくなり、耳鳴、難聴、中耳炎、目まい、はき気、無意識の咳、手足の骨（大きい骨）の痛み、片頭痛、頬の内側又は舌を咬む、高血圧、低血圧、大腸・胆のう・胃のケイレン、一時的な意識の喪失をおこすものです。

この様にひとつの骨がズレますと、すべての骨がズレるだけでなく、左右の歯の咬み合せの高さも狂うものです。

そして頭蓋骨も左右前後にズレをおこしているものですから、その後頭骨も左右どちらかが後にズレをおこし、反対側のほほ骨、前頭骨は前へ飛び出し、その側の眼球は奥後へ引張られるものです。

その側の足のつけ根の肢関節は外開きとなり、足のヒザ、足の小指側に負担がかかり痛くなりやすいことになります。

又、各関節部がズレをおこすものですから、それに関係する関節内の動脈が圧迫されて血流障害をおこし機能障害を引きおこします。

例をあげますと、頭蓋骨がズレますと必ず骨盤がズレます。そして左右の足への血流が悪くなり足のヒザ、足の「ふくらはぎ」が異常をおこし痛くなったり、又足全体が「むくみ」足の指迄「むくみ」足の指と指がくっついて水虫が感染症ですが、薬をつけてもなかなか治らないということになり、この「むくみ」が腎臓にも影響をおこし、腎臓が下へ垂れ、そしてその側の肩が引張られ肩が凝り、さらに…。

今迄述べたのが一般的な顎関節痛です。

今度は外的障害を受けた顎関節症、例えば歯の矯正治療をした、歯のインプラントを埋め込んだとか、電磁波を受けすぎた、体に合わない薬を服用していた等があります。

頭蓋硬膜（脳硬膜）、脊髄硬膜が緊張をおこし、骨と骨との間の関節の隙間、頭蓋骨の骨と骨との縫合部の隙間が圧迫されて狭くなり、血流等が悪く、体がだるく、重く感じ、各骨が動きたくても動きにくい状態になる為に左右の足の長さはほぼ同じ位の長さになるものです、又顎関節部のレントゲンを撮っても左右が均等に写っているものです。

この様に硬膜の緊張をおこしますと、神経伝達物質、ホルモン・神経障害、PHの問題、血流の循環不全がおこり、内臓始め体全体の異常を引き起こすものです。一般的な顎関節痛よりも重症のタイプです。

病気の中の病気ともいい、医者に診てもらってもわからないというタイプです。

硬膜緊張のタイプは髪の毛を全部上へ引っ張ってみると足の先までなんとなく血が流れているような気がするものです。

これらは硬膜の緊張を取り除いてそれから一般的な顎関節症の治療を始めなければなりません。

歯の矯正治療で顎関節症が治るといえるのは全くないことです。自覚症状が出る人、出ない人がいますが、自覚症状が出るとしたら左右に出てくるものです。片側に較べて重症ということですが。

次回は歯の咬み合せと脳（大脳）の病気との関係を予定しています。